

1. 令和三年度 活動報告

1.1. 委員会について

令和三年度は下記の体制にて活動した。

委員長：	梶川嘉延（関西大学）	
副委員長：	古家賢一（大分大学），	小山翔一（東京大学）
幹事：	加古達也（日本電信電話，会計担当），	西浦敬信（立命館大、企画担当）
幹事補佐：	若林佑幸（東京都立大学，広報担当），	小松達也（LINE，広報担当）
委員：	伊藤信貴（東京大学），	井本桂右（同志社大学）
	岩居健太（立命館大学），	岩谷幸雄（東北学院大学）
	榎本成悟（パナソニック），	岡本学（崇城大学）
	折本寿子（県立広島大学），	北村大地（香川高等専門学校）
	木下慶介（日本電信電話），	阪内澄宇（NTT 東日本）
	島内末廣（金沢工業大学），	杉本岳大（日本放送協会）
	藪田光太郎（長崎大学），	武岡成人（静岡理工科大学）
	谷川将規（清水建設），	TREVINO Jorge（ヤマハ）
	西川剛樹（パナソニック），	羽田陽一（電気通信大学）
	藤坂洋一（リオン），	堀内俊治（KDDI 総合研究所）
	松井健太郎（NHK），	水町光徳（九州工業大学）
	宮崎亮一（徳山工業高等専門学校），	森川大輔（富山県立大学）
	渡邊貫治（秋田県立大学）	

※ 敬称略・五十音順

1.2. 研究会について

令和三年度は全5回の研究会を開催した。7,8,11月はコロナ禍に伴いオンラインでの開催となったが、12月は現地開催、3月は現地とオンラインのハイブリッド形式にて開催した。発表数は昨年度と比べて微増の状況であるが、参加者数は特にオンラインを中心に大幅に増加している。

開催月日、開催地、テーマ、共催、講演件数、頁数及び参加者数を下表に示す。6月には、前年に引き続き情報処理学会音楽情報科学研究会音学シンポジウムに協賛した。

11月には、前年度に引き続いて学生セッションを実施した。電気音響研究会学生研究奨励賞を選奨し、1名に授与した。12月は超音波研究会と併催で音響・超音波サブソサイエティ会議を開催した。音響・超音波サブソサイエティ学生研究奨励賞を選奨し、2名に授与した。

開催月日			開催地	テーマ (一般は省略)	共催*1	件数	頁数	参加者数
月	日	曜日						
4			休会					
5			休会					
6			休会					
	(18) (19)		(オンライン)		(情報処理学会音楽情報科学研究会音学シンポジウムに協賛)			
7	15 16		オンライン	応用/電気音響, 聴覚, 音声, 音楽音響, 音響教育	日本音響学会聴覚研究会 (ASJ-H)、音楽音響研究会 (ASJ-MA)、音声研究会 (ASJ-SP)、音響教育委員会共催	19	94	145 80
8	20		オンライン	応用/電気音響, 聴覚	日本音響学会聴覚研究会 (ASJ-H) 共催	7	38	31
9			休会					
10			休会					
11	15 16		オンライン	<ビギナーズセッション> 応用/電気音響, コンテンツ処理, 情報ハイディング, 聴覚	電子情報通信学会マルチメディア情報ハイディング・エンリッチメント研究会 (IEICE-EMM)、日本音響学会聴覚研究会 (ASJ-H) 共催	31	164	87 67
12	22 23		崇城大学 (熊本市)	応用/電気音響, 超音波	<音響・超音波サブソサイエティ合同研究会> 電子情報通信学会/日本音響学会超音波研究会 (IEICE/ASJ US) (併催)	19	41	34 30
1			休会					
2			休会					
3	1 2		沖縄県立博物館・美術館 (沖縄) + ハイブリッド	応用/電気音響, 音声, 信号処理	電子情報通信学会音声研究会 (IEICE-SP)、信号処理研究会 (IEICE-SIP) 共催、情報処理学会音声言語情報処理研究会 (IPSS-SLP) 連催	41	212	148 101
合計*2						117 (102)	549 (571)	723 (548)

*1 IEEE SPS Tokyo Joint Chapter は毎月協賛.

*2 APSIPA Japan Chapter は毎月協賛.

*3 ()内の数字は昨年度の実績.

1.3. 研究発表会及び大会について

日本音響学会秋季及び春季研究発表会は両発表会ともオンラインでの開催となったが、前年度に引き続き盛況となり、下記の講演件数となった。

2021年秋季： 104件（うちポスター54件、共催を含む）

2022年春季： 100件（うちポスター52件、共催を含む）

合計： 204件（うちポスター106件）

また、電子情報通信学会ソサイエティ大会及び総合大会もオンラインでの開催となったが、下記の講演件数となった。

2021年ソサイエティ大会： 4件
2022年総合大会： 9件
合計： 13件

2. 令和四年度 活動計画

2.1. 委員会について

令和四年度の体制については、学会の承認が得られ次第更新する方針であるが、新幹事団としては以下の体制を予定している。

委員長 古家賢一（大分大学）<IEICE>、 梶川嘉延（関西大）<ASJ>

副委員長 小野順貴（東京都立大）※新任、加古達也（NTT）

会計幹事 西浦敬信（立命館大学）

企画幹事 若山圭吾（NTT）※新任

幹事補佐 矢田部浩平（早稲田大）※新任、中山雅人（大阪産業大）※新任

専門委員に関しては以下の退任・新任を予定している。

[退任予定者]

岩谷幸雄（東北学院大学）、 榎本成悟（パナソニック）

杉本岳大（日本放送協会）、 西川剛樹（パナソニック）

[新任予定者] ※3/14 現在

小泉悠馬（Google）、 小松達也（LINE）

小山翔一（東京大学）、 梶川嘉延（関西大）<IEICE>

佐々木陽（NHK）、 古家賢一（大分大学）<ASJ>

※ 敬称略・五十音順

最後に長らく顧問として EA 研専運営にご尽力頂いた中島 平太郎 元日本音響学会会長は、2017年に逝去（享年 96 歳）されました。心からお悔やみ申し上げます。

2.2. 研究会について

令和四年度は全 6 回の研究会を開催する計画である。開催月日、開催地、テーマ、共催は下記のとおりである。5 月にオンライン開催を企画（コロナ禍に関わらずオンラインにて開催）し、全 6 回（オンライン、北海道、東北、北陸、中国・九州、未定）を計画している。昨年度からの懸念事項である 11 月の北陸開催を 10 月に移動する事案に関しては、他研専との調整がまとまらず、2022 年度も引き続き 11 月開催となった。また、例年通り 6 月には情報処理学会音楽情報科学研究会音学シンポジウムへの協賛も引き続き行う。音響・超音波サブソサイエティ合同研究会は本年度と同じく 12 月に開催し、ポスタ発表でのサブソ学生研究奨励賞の選奨を従来通り実施する。

開催月日			開催地	テーマ (一般は省略)	共催*1	発表 件数 見込
月	日	曜日				
4			休会			
5	13		オンラ イン	応用/電気音響	単独開催	20
6			休会			
					(情報処理学会音楽情報科学研究会音学シン ポジウムに協賛)	
7			北海道	応用/電気音響, 聴覚, 音声, 音楽音 響, 音響教育	日本音響学会聴覚研究会(ASJ-H)、音楽音響研 究会(ASJ-MA), 音声研究会(ASJ-SP), 音響教育 委員会共催	30
8			東北	応用/電気音響, 聴覚	日本音響学会聴覚研究会 (ASJ-H) 共催	20
9			休会			
10			休会			
11			北陸	<ビギナーズセッ ション> 応用/電 気音響, コンテン ツ処理, 情報ハイ ディング, 聴覚	電子情報通信学会マルチメディア情報ハイデ ィング・エンリッチメント研究会(IEICE- EMM)、日本音響学会聴覚研究会(ASJ-H) 共 催	30
12			中国・九 州	応用/電気音響, 超音波	<音響・超音波サブソサイエティ合同研究会> 電子情報通信学会/日本音響学会超音波研究会 (IEICE/ASJ US) (併催)	20
1			休会			
2			休会			
3			未定	応用/電気音響, 音声, 信号処理	電子情報通信学会音声研究会 (IEICE-SP)、信 号処理研究会(IEICE-SIP)共催、情報処理学会 音声言語情報処理研究会 (IPSJ-SLP)連催	60
合計*2						180

*1 IEEE SPS Tokyo Joint Chapter は毎月協賛予定.

*2 APSIPA Japan Chapter は毎月共催予定.

2.3. 研究発表会および大会について

例年どおり、日本音響学会秋季及び春季研究発表会、及び電子情報通信学会ソサイエティ大会及び総合大会のプログラム編成に関わる方針である。

以上